



A / 4フロアで合計33台の『G-cyclone』を導入した B / 入口の看板で「全席喫煙可能 至福のひとときを」と喫煙者にアピール

空気が劇的に改善した “気兼ねなく吸える店”

激戦区での快適遊技環境づくりに大きく貢献

「愛煙家に気兼ねなくタバコを吸ってほしい」というのが、『マルハンなんば本館』（大阪市中央区）のコンセプトのひとつ。喫煙推奨店の空気環境を劇的に改善し、タバコを吸わない来店者にも非常に喜ばれているのが、グリーンランドの『G-cyclone』だ。

「マルハンなんば本館」があるのは、ミニ千日前商店街。300m足らずの通りの周辺に10軒以上のホールが密集する激戦区だ。

設置台数は1156台（パチンコ622台・パチスロ534台）で、4フロアの大型店。すぐ近くには5年前に出店した、『マルハンなんば新館』（設置台数1086台／パチンコ650台・パチスロ436台）がある。

『G-cyclone』が導入されたのは、2月24日。谷本恵一店長の着任に合わせてプロジェクトが動き出した。

「タバコの煙とニオイのあまりのすごさに衝撃を受けました（笑）。自店は、テナントビル内の多層階型ホールなので天井が低く、どうしても空気の流れが悪いんです。これまでも換気の増強や増設などで改善を試みましたが、どれも満足な結果は得られなかったようです」

谷本店長は、非喫煙者。自宅に帰ると奥さんや子どもに「体中からタバコのニオイがする」と言われた。

コンセプトを明確にした戦略が功を奏して、両店とも多くのリピーターを獲得している。

◇ 『G-cyclone』の導入店では、消臭や消煙だけでなく空調の温度ムラが解消したという事例が数多く報告されている。店舗の構造や店内装飾の量などで、程度には差があるが、空気を徹底的に攪拌する『G-cyclone』ならではの副次的なメリットだ。

谷本店長は、これを機に「季節や日によってお客様にとって何度が最適温度なのかを調べ、きめ細かく対応していきたい」と言う。今までは空調機の近くと離れたところで温度差があっても、調整しにくかったが、『G-cyclone』の導入で、来店客の多くが納得するような室温管理が可能になった。

「このエリアに限らず、特に設置台数の多い競合同士は、機種構成での差別化は難しい。集客力をアップするには、やはりお客様が遊技される環境をいかに良くしていくかにかかっていると思います。『G-cyclone』で空気がきれいになったのは、その第一弾。導入はこうしたことを真剣に考えるための、きつかけづくりになりました。『居心地のいい空間づくりのために、これからもっといろいろなことに取り組んでいきたいと思っています』

浮遊粉塵量を測定したところ、場所による数値の高低差は12倍以上。特に入口から遠く、奥まった個所は空気が動きにくいためにタバコの煙がよどみやすく数値が高かった。人間が煙たさを感じるのはこの高低差。グリーンランドは粉塵量そのものを下げるだけでなく、この高低差をなくす設置プランを提案。導入後はアンケートを取らな

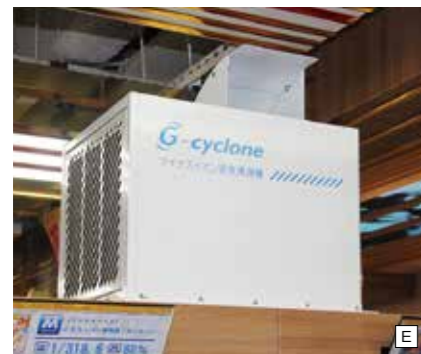
くても来店客から大きな反響があるほどだった。

また、ある女性スタッフは、花粉症やタバコの煙対策として鼻の粘膜保護薬を毎日塗っていたが、『G-cyclone』を設置した翌日たまたま塗り忘れた。ところが、くしゃみや痒みなどの症状が全く出ず、非常に驚いたという。

「タバコのニオイがしなくなったね」と数えきれないほどのお客様に声をかけていただきました。おかげさまで、『なんば本館は気兼ねなくタバコが吸えるのに空気がきれい』というイメージがすっかり定着しました」

『G-cyclone』は、台風並みの風力でマイナスイオンを送り出し、その対流でホール全体の空気を徹底的に攪拌する。このため、プラス帯電したハニカムフィルターの集塵効果も飛躍的にアップ。消臭・消煙はもちろん、インフルエンザや花粉対策にも期待できる。

ところで、すぐ近くにある『マルハンなんば新館』は、全席禁煙の店舗だ。「近接した系列店では、それぞれ特徴を大きく打ち出さなければ集客に限界があります。そこで、なんば本館は地元のお客様をメインターゲットに全席喫煙可、一方なんば新館は大阪市全域のお客様をターゲットに全席禁煙にしています」



谷本店長

C / パチスロでも威力を発揮する『G-cyclone』 D / 空気がきれいだと、スタッフも自然な笑顔がこぼれる E / コンパクトでスタイリッシュなデザインが特徴。島上に置いても違和感がない